

令和5(2023)年度 第1回栃木県スポーツ推進審議会 議事録

1 日時 令和6(2024)年2月6日(火) 10:00~11:30

2 場所 栃木県公館 大会議室

3 会議名 令和5(2023)年度第1回栃木県スポーツ推進審議会

4 出席者

(1) 委員 15名(うち3名 WEB 出席)

阿久津 委員、安藤 委員、板橋 委員、岡本 委員、金田 委員、亀岡 委員、久保 委員、後藤 委員、鈴木 委員、田代 委員、高原 委員、並木 委員、平野 委員、本田 委員、吉成 委員

※欠席 5名

齋藤 委員、菅谷 委員、須藤 委員、二宮 委員、星野 委員

(2) 事務局 13名

【生活文化スポーツ部】

野原部長

【スポーツ振興課】山形課長、安西主幹兼課長補佐(総括)、菊地主幹(競技力向上 GL)、村田副主幹(スポーツ企画 GL)、田中係長(スポーツコミッション TL)、松島副主幹(スポーツ施設 GL)、桧山課長補佐(生涯スポーツ GL)
他：事務局員 5名

(3) 【健康体育課】板橋副主幹 GL

5 内容

(1) 開会 (10:00~)

(2) 挨拶 (10:03~)

栃木県生活文化スポーツ部 野原 恵美子 部長

(3) 委員紹介 (10:07~)

(4) 議事 (10:10~)

「6. 議事の概要」を参照

(5) 閉会 (11:30)

6 議事の概要

(1) 報告事項 (10:10~)

報告1 「栃木県スポーツ推進計画2025」の県関連事業の進捗状況について

報告2 栃木県スポーツコミッションについて

報告3 令和5年度国庫補助事業「スポーツによる地域活性化推進事業(運動・スポーツ習慣化促進事業)」の実施報告について

報告4 部活動の地域移行について

報告1 「栃木県スポーツ推進計画2025」の県関連事業の進捗状況について

【事務局】

・資料1 「栃木県スポーツ推進計画2025の推進指標及び目標値と達成状況」 (資料1-1)

「令和4(2022)年度「栃木県スポーツ推進計画2025」に基づく県事業等調査表」

(資料1-2)

「令和5(2023)年度「栃木県スポーツ推進計画2025」に基づく県事業等調査表」

(資料1-3)

及び映像に基づいて説明

【委員】

- ・スポーツ参画人口の拡大について、目標値が小学校5年生及び中学校2年生男女とも全国平均を上回るということであるが、この基準を遡ってみると、今の体力の合計点よりも、2019年の方が高いところがある。数字ではなく、全国の平均を指標としたところについて、その経緯を教えてください。

【健康体育課】

- ・全国的に見て、体力が下がっている時期もある。近年は新型コロナウイルス感染症の影響や社会的な変化等もあり、そういったものを考慮して、過去との比較ではなく、全国平均との比較としている。

【委員】

- ・今後、目標設定する際に、全国と比べるのではなくて、体力の向上を目指していくという目標値が別にあったほうが良いと考えている。

【委員】

- ・成人の週1日以上スポーツ活動実施率について、1つ提案だが、65%という数字は、国のスポーツの施策を目標にしているのかと思うが、やはり国が65%で本県が52.8%というところ、どうしても本県は運動をしていないというイメージが先行してしまうような気がする。2年間の施策の実行の中で、実際に意識的に運動している県民というのは非常に多いと思うので、運動もスポーツの一部として捉えた調査であるということ、ぜひ県民の方に広めていただきたい。栃木県民はこんなに運動しているという数値で、触発される県民も非常に多いと思うので、今後2年間の県政世論調査の仕方にも何か工夫があると良いかと思う。

【事務局】

- ・質問の構成をどのようにしていくかということは、回答するにあたって非常に重要な部分だと思う。
また調査だけでなく、スポーツが持つ力を健康や生きがいも含めて、スポーツの重要性を広めていくことが、我々としても重要だと考えており、しっかり取り組んでいきたい。

報告2 栃木県スポーツコミッションについて

【事務局】

- ・資料2「栃木県スポーツコミッションについて」及び映像に基づいて説明

【委員】

- ・映像を見させていただき、大変充実しているという感想である。
ただ、この対象は、ジュニア世代なのか、シニア層なのか。また、プロや大きい団体なのかという目線を持ったときに、ターゲットが漠然としていて、今の映像を見ると、小学生や高校生大学生が、さあ行こうと思うかどうか。ゴルフツーリズムなどには良さそうな感じはするが、ターゲットとしてはどちらなのかなということ伺いたい。

【事務局】

- ・7月31日にスポーツコミッションを設立し、合宿関係の補助金も7月から募集をさせていただいた。
現在の利用状況は、サッカー関係や大学のサークルや部活動関係、大会ではシニアが、非常に多い状況である。大会の実績では、全国レベルの大会が6件栃木県で行われた。
内容としては、全日本学生スポーツ射撃選手権大会やフットサル選手権大会、フットゴルフ

フのワールドツアーなどである。このような大会等に支援をさせていただいたということである。

合宿に関しては、今の段階では特にターゲットを絞らず、多くの方に利用いただきたいというところである。

PRの仕方としては、中央競技団体の方に回らせていただき、お話やPRをお願いしている。また、栃木県スポーツ協会にも事務局を置かせていただいております、今のところターゲットとして絞るというよりは、多くの方にお使いいただきたいということで、周知しているところである。委員の皆様にも、ぜひこのような栃木県の活動を広げていただければと思っている。

【委員】

- ・そのようなことであれば、例えば小学生だったら、そのあとに温泉というよりは、栃木県の食材を使ったバーベキューなどを少しプラスしたり、豊かな自然をプラスするのも良いのかなと思う。

【事務局】

- ・せっかく栃木県に来ていただいたのであれば、やはり栃木の食を楽しんでいただき、温泉に入っただくなどの仕掛けが必要だと考えている。現在25市町に協力していただき、スポーツコミッションに入っただいている。やはり観光部門との繋がりというのは非常に重要かと考えており、観光協会にも声掛けさせていただいている。次年度は、25市町の皆様、観光協会の皆様とより一層情報共有させていただきながら取り組んでいきたい。

【委員】

- ・映像の中にも、とちぎスポーツ医科学センターで測定をしている様子が映っていて私も少し映っていたが、実際に県外からの合宿でトレーニングルームを専用利用みたいな形で利用しているケースは、2月、3月も入っている。
また、施設の利用だけでなく、スポーツ医科学センターにしかない、持久力の専門的な機器などもあるので、施設の利用以外にも測定や講習会で、ぜひ活用いただきたいと考えている。

【委員】

- ・2点お話しさせていただきたい。
1点目は全国平均値を小・中学生が一部上回ったという報告についてである。
私も5歳から卓球をしていたが、日常の中でできる環境や施設、あるいは教室みたいなものが身近にあるかどうかということが非常に重要だと考えている。近くでできる施設があることや身近に教えてもらえる先生がいることはスポーツ、運動を続ける環境としてはすごく良い。
- ・2点目はスポーツ合宿についてだが、スポーツの大会を開催するというところと、合宿を開催するというところでは全くアプローチが違うと思っている。
例えばトップ選手が参加する天皇杯皇后杯などの大会は、一般人が参加というよりは、トップ選手を見に行くというような視点になるので、アプローチは違うと考えている。
トップの試合を誘致するというのであれば、各競技団体がそれぞれの中央競技団体に誘致するというアプローチをしなければならないと思う。
卓球を例にとると、かなりアプローチしている県は大会を誘致できるが、県によって偏りがある。その部分に関しては全ての競技団体にスポーツイベントをすることは難しいと思うので、ある程度競技やターゲットを絞った方が良いと思う。
- ・補足で、栃木の特産物を東京の多くの方にプレゼントする機会があるが、知られていないことも多い。スポーツの施設や大会も含め、もう少し宣伝広告等を積極的にすることが大事だと考えている。そのことによって、栃木を知ってもらい、利用してもらうことに繋がるのかと思っている。

【事務局】

- ・子供が体を動かせる環境が身近にあるということがとても重要だという意見はまさにそのとおりである。また、そのために指導者が身近にいるという環境を作っていくことがすごく重要だという意見もおっしゃるとおりだと思っている。
- ・スポーツ合宿と大会の関係については、大会関係はマラソン大会などは対象外で、いわゆる今回の大会のインセンティブとして用意しているのは、様々な大会が開催される中で、栃木に施設があるので、その施設に呼び込める大会という条件で行っている。したがって、既存の大会は基本的には対象ではなく、新たな大会を作る、他の県で持ち回りのものを誘致していくというような形で考えているが、行政だけではなかなかうまくいかないのが、競技団体とタッグを組み合わせながら誘致をしていくということが非常に重要だと思っている。
- ・大会の方も現在多くの競技団体に声をかけているが、いずれ何年か経ってきたときに、「栃木のこの施設はこの競技にすごく特化していい」ということになってくれば、戦略的にやっていく必要があると思っている。来年度は、市町の皆様方と戦略的に誘致を進めるにはどうしたらいいかということを検討させていただきたいと考えている。
- ・合宿についても、戦略的にターゲットを絞ってやっていく取り組みが必要と思っている。

報告3 令和5年度国庫補助事業「スポーツによる地域活性化推進事業(運動・スポーツ習慣化促進事業)」の実施報告について

【事務局】

- ・資料3「令和5年度国庫補助事業「スポーツによる地域活性化推進事業(運動・スポーツ習慣化促進事業)」の事業報告について」に基づいて説明

【委員】

- ・実際にこの事業を私のクラブでやらせていただいている。若い方々に来ていただき、日頃運動をしていない方が運動をすることができ、また子育てをしている方々もリフレッシュができて本当に良いということで、ぜひ継続してほしいと言われている。この事業の今後については現在検討中ではあるが、継続していければと考えている。

【委員】

- ・私自身が2022年の年末に娘を出産して、今1歳になるが、やはり仕事と育児の両立というところで、おそらく小さなお子さんを育てている世代は、本当に運動する時間がないという中で、今回の教室などはとても素敵な活動だと思ったので、形にこだわらずに、ぜひ今後もあると良いと思った。

報告4 部活動の地域移行について

【健康体育課】

- ・資料4「部活動の地域移行について」に基づいて説明

【委員】

- ・今年度、地域クラブの方が大会と中体連の大会に参加できるようになった。実際に20以上の地域クラブが、中体連の大会の方へ出場し、ハンドボールなどは中体連の大会で優勝をしているような状況である。やはり、少子化が非常に進んでいるということを感じている。合同チームも昨年度の倍ぐらいのチームが、特に団体種目の野球やサッカーなどでチームが組めないのが、合同でチームを組んで参加するということが増えてきた。また、今のところまだ少ないが、

「拠点校」ということで、部活動がない学校も、部活動のあるところに行って活動していけるようにというのが、各市町の方で進んでいる状況である。次年度以降は少し「拠点校」なども、実際に進むのではないかと考えている。

やはり、この部活動の地域移行が今後課題になってくるかと思っているが、今いる子供達の活動の場を失わないよう、スムーズに進めていかななくてはということを考えている。

- ・県でさまざまな動きがあるかと思うが、それぞれの学校の方に情報がなかなか伝わらないことが少し問題と感じている。現在いろいろ動いているところをぜひ情報発信していただきたい。

【健康体育課】

- ・学校のみならず、小学生や中学生のお子さんがある家庭も含め、情報の周知が課題と捉えている。今後しっかり取り組んでいきたい。

【委員】

- ・私も宇都宮市の PTA の理事を務めさせていただいており、先日の会議でも部活動の地域移行が一番話題に上がった。その中で、校長先生からは「1つ部活動を地域に移行する。でも自分の学校でどの部活を選んでいいのか。そのあとに、そこに着任してくる顧問の先生がやりたかったとなったらどうするのか」「指導者不足について」「財源について」などの話があった。

この辺りもよく考えていけると良い。

【健康体育課】

- ・現在、実証事業として5市が取り組んでいるということをお話させていただいたが、取組の成果をもとに、金銭的なものも含め、具体的なモデルが示せるように、次年度取り組んでいきたい。

【委員】

- ・全ての競技を県の方でフォローしていくというのは少し難しいのではないかと考えている。まずは進めていく段階においては、ある程度競技を絞ってみたり、段階的に早めに進めてみるなどが良いと考える。その中でおそらく、財源などの課題も出てくると思うが、まずは少し対象の競技を絞ってでも、少し早めにスピード感を持って進めてみるのが良いと思う。

【健康体育課】

- ・現在、栃木県の実証事業においては、主に「競技単位」よりも、「学校単位」で移行することで考えているが、今回いただいた意見を参考に「競技単位」も検討していきたい。

(2) 協議事項(11:10~)

協議 1 次期栃木県スポーツ推進計画策定に向けたロードマップについて

【事務局】

資料5「次期栃木県スポーツ推進計画策定に向けたロードマップについて」に基づいて説明

【委員】

- ・今の推進計画を作成するにあたって、審議会のワーキンググループを作って進めていったと思うが、どのように考えているか。

【事務局】

- ・スポーツ振興施策がこれまでの教育委員会部局から知事部局に移管したことにより、庁内ワーキングの設置を考えている。
教育委員会所管のスポーツに関する部分や知事部局の中でも、健康増進課、障害福祉課など、スポーツに携わる部局もあるので、庁内のワーキングで検討させていただいた結

果をこの審議会の方で審議していただいて、それを持ち帰るというような作業を今回は提案させていただいた。ワーキングの開催は、令和6年度の2回、令和7年度3回で考えている。

回数については、ワーキングを開催した中でもう1回必要ではないかということであれば、審議会などで議論していただきたいと考えている。

【委員】

- ・ 県にはいくつか様々な部署によってプランがあるかと思うが、例えば医療や福祉など予算に裏付けされた現実的なプランが必要なプランもあるかと思う。
このスポーツ推進計画というのは、県民の夢を与えるようなプランでもあるということで、予算に裏付けされた現実的な内容もちろん必要だと思うが、5年が無理だったら、長期的な10年を見越した夢のある内容もぜひ盛り込んでいただけるとありがたいということで提案させていただきたい。

(3) その他(11:25)

委員の改選について

【事務局】

- ・ 委員の改選について説明
スポーツ推進審議会の委員の任期は、令和6年7月6日となっている。
今後、年度が切り替わる時期をタイミングとして、改選の手続きなどを進めさせていただければと考えている。

【議長】

- ・ 以上で全ての議事を終了する。